

武江年表

武江年表

七



リ 5
112
7



閏六月
十七日
目白
長谷寺
竹生島
母天
觀世音
開帳

武江年表卷之七

寛政元年己酉

正月廿廿改元 六月国



○天明七八年の頃より碑文谷法花寺の仁王尊堵於成就ひりんやあつけいどよりかろうえんより貴後

男女系譜を事たり次男小群集夥えんともがひいり十二年よりたけのよりたけのより

○二月廿嘉隆えんりやう○米穀豊饒こめあふあり○永代えいだいより小成田山不動こなりやまふどうより

有り甘納物ありあまのり有り系指羣集けいさしぐんしゅうあり○淡路あわじより親おやより修巖しゆいふ○五月十九日

儒師入江北海にうしりやう卒なま名貞孫なまのまことより右法みぎほうつつ○七月七日しちがつしちにち起哥か師し卒すま秋あき季き化くわ卒すま内うち宿しゆく烟えん州しゅう金きん石せき

○七月七日しちがつしちにち起おこ方かた子こ淳じゆん世せ繪え師し憲けん川がわ春はる町まち卒すま道みち称なづ倉くら橋はし書かき卒すま画え作さく由よし

○八月八日はちがつはちにち大風雨おほいそよひ家屋けあやを損こ以も深川ふかがわ辺へ大水おほいづみ○八月はちがつ市谷いちや先まへ他た院いんあり川がわ口くち湯ゆ枝えだ

市いち地ち菟う号ごう開帳あき○菊きく能の人ひと谷や風かぜ枕まくら之の助すけ小野おの川がわ喜き三さん郎らう横よこ綱づな免めん許もと又また九く枝えだ枝えだ

武江年表卷之七

とつる角力取行る○十月より始り大川毎々外川と河津流中洲築地
取拂せし翌年ふいり元の水面とある○十二月廿日夕より夜一けく再甘
露降○深川寺町法雲院不動尊流石出り新穀の着多し

○本所相代町本花火除と成り代地深川より橋戸田東女正殿は屋敷
の地をとりつる○本佛の開帳年々盛なりと敷くありしと寛政より
享和連のり委しく祀せる物せりし尚實繁とて次編み詳あるべし

寛政二年庚戌

正月廿一日本所相代町より出火砂村百姓屋連焼る○三月九日画人劉安
生卒 号秀山 蘇州 曹溪より入来り ○三月十日下谷稲荷社祭礼産子町より出り遷物出
る 本所の時より産子の法度より本相流の 敬ふとゆふこと同例之に後中絶せり ○永代寺より京師大佛の内并才を開帳この
る境内見せ物不士生程言せり世よりなれりあふまはるるを物とて封筒

の輩も酒宴の身ふこれと學つる ○神奈川浦崎古親世音江戸ふく園地

○八月十日野栗川院典信卒 卒 八月廿三日前白付点者

川柳卒 俗終せ方うとてねを仰るに未成柳樹と号し教篇を撰み今ふし流るるは公の

○九月六日儒師山中天文卒 二十才名無く稱補卒 ○十一月廿七日夜大地震

○十月琉球人來聘 正使宜清王 備采のり西て富士をて採り 宜清王の子

○十一月二日夜甘露降 ○洲田回春成 天のよりこのうと御名真推を回蜀山

○琉球評判 又朝鮮倭由刊行せり ○磁器焼焼始る

同 二年辛亥

○正月十五日儒師卒次旭山卒 五十九才名元禮林五郎 深川法禪寺小森氏

○二月十奇より五十日の間法

草寺親世音園地 ○市井の法令を改むる坊間の費用を減し核令始る

翌年六月秋掃 向 所舎新築 中 築を創建あり是米價貴踊のた

或の不時の災變の初級民を救ふるが爲の 所仁恵あり ○京師の子寄堵

庵が才子中沢道二 東西津系在居 飛居久去捨 江戸ありて萱場町ある医師前田一貫が

宅よてん字を講トるが才子不離集りたる友村田相生町向の所所よ参

前舎を建て講治の所と沢道二存居ととる書教を篇梓は後世に

参り舎の今相續と 参考舎の今相續と ○五月十九日夜九時分大雨雹交る ○赤川所傍の後

塩濱松平豆刈彦所下郎と成る ○六月加茂縣主季常留佃為住吉の社

前一碑を立る 始ふ系林のりり勅法の手を述べて中次お云元禄七年川上正吉信林大坂登伊云 情といふ者後うみ叔の懐くうりきを殺きり賣買の高金を十組お分ちて位米の 船とらふあうりーむむるよおせおも親おき控と定めその洋中のあうりー生風慶のまかへあうり せとと正保の辰成子とよみとらうて海社とおとらに祝をれるとらうとありて末お母あり

榊木の以存供りうりうり供ひつとゆあむいさぞ 持これ

○醫學館日講始る ○隈町河卷あう駝をを見せ物と成

あうくまのちよ小石を 含い又學館火を起

一も食ひ ○八月六日大雨雨小田原辺より江戶迄海辺迄潮上る ○町火消纏帳箱を

改白漆塗とある ○八月十七日麻布幸村氷川町林幸礼お練物お出る

○八月廿日暑あより雲出海鳴り暑あより大風雨明七時止む

○九月四日大嵐時夜中より大雨南風烈く八月より強一已刻迄潮赤川

海崎一漲りてゆきまじむ一入船町久右傍町町子目式丁目と唱一吉祥寺

門あお建つとて町家住居の人救とてふ一時小海一流きてお方を知るは

舟又天社損ト拜殿別當下外流失生とての浪行徳船橋塩漬田り

つれ氏家流失は外流方家お吹損一川とあ溢る晝時ふりう潮引く関

東の船をさう洪水何ある 諺云蟹陸へさく遠上るは津浪の 兆といは時既ふまうりといりうらむ一 海傍の地お居る浪の委

計りがうとて西へ入船町隈東へ吉祥寺門あまする連丸長式百八十五万餘の

家屋を取らふ一畠地より一畠 此内西のうへ入船町は 傍に氏家を裁付ゆとあり ○九月十三日能人真秋彦

白旗卒 五十才居川 海晏子小暮次 ○九月廿七日儒師松田拙斎卒 名長恭麻布 天竺より来りて

○神田明神祭祓禊年より河原あまの始り 享和より輕業あり後文化 年中より踊り小つて

三組と成る 年當り勤むておより一雨つと出はるし ○十二月九日回向院へ命せられ永代 後年以てお超えててその頭縁物身物を出

ち小おひく 海傍流死の者能儀鬼修りあり ○十二月十四日十五日神田社年の市 後年市へ傳つておとて

始り 後年廿日廿日小改む ○十二月□日下谷火事 ○深川洲傍石物の荒さは九月言波の 後年

寛政四年壬子 二月日

二月初午の日芝日以谷稻着桑被庵子町より出へ縁物と出次 ○二月七日

麹町火事 ○壬二月六日詩人安達文仲卒 名格号淡海三の痛 志はる小暮次 ○四月の以より米價

乞場を ○五月十四日新井白蛾卒 六才才林謙吉と云 易樹小名あり ○護國寺にて秩父二十世番

親世音閣様 ○六月十音山王所系礼附系三組と成る 神田小同トされと此處を 本枝本町外式ト下り出りし

○六月餅鳥居安側一町舎所新築を建てる是迄の火的場あり 左折居の外に くれぬ

○六月十八日亥刻光物西南より東北へ飛文さまのぶとー ○七月廿一日飛戸

梅屋安の梅舊根焼失はるしー江戸砂子書入といふ事申ふあり

○七月廿一日南大風已上刻麻布并橋より出へ就土今井谷赤坂青山江谷

合遠麹町番町飯田町小石川河門小川町三橋福島の社辺追焼亡 此後

番町麹町の裏に火除の地出来る 以時追番町小天の 年中の家徳も述べ ○牛込赤坂通西側の山下

何某屋邸あり空餘に植木松石を建てて坐一が此時麹町の善國寺と肥田

何某の邸小あけり後又以後安町家改まり ○八月十二日画人松林山人卒 名号山人

大川を ○西本願寺冲堂再建 紀州和方山構中より寄進者若三十二人五人を列の 名を掲末是代あり小建り物に建方とといつ所

○谷中感應寺 今天 五重塔昭和九年二月廿九日焼くる縁

今年再建あり ○十一月七日儒師千葉芸園卒 名号之孫後右衛門 子若木徳禪と小暮次

浮世繪師勝川春章卒 淡路西福と小暮次号旭朗并能優肖像を画く多し多あり門人 喜好英妻為妻山喜徳喜林喜徳喜玉喜喜存教あり

○十二月十八日下依八幡八幡宮社内塔の古樹を堀穿る不吉鏡をえり言二戸
落り二尺二寸元亨元年酉十二月十七日別當知田と彫る

寛政五年癸丑

正月関東地震○麹町若水寺去年火除の為地を石上りれ神樂坂小代地を
あつりけるが今年二月普請落成して廿七日毘沙門天^{せんざ}過座あり○二月淺草寺
奥山ふふび様救済を裁る○三月六日より茅場町某師境内を房州鏡
浦西行寺西行法師像開帳○梅場神明宮内天満宮開帳○五月より
九月中を江戸霖雨大川出水○五月廿日書家荒木吳江卒 号平水丸山 長妻小葉次
○九月先達て魯西亞^{おろーや}漂流して帰朝せし伊勢白子の船政幸太史磯吉江
戸^一来り 天明二年十二月強風神を難風小遠ひ漂流せしといふ故者今年廿八才一が内船の後
程多く死なり重太史今年廿二才坂田町の内某園中ありと後若妻を保りといふ
○十月廿五日湯島松平雲州侯別館より出火村田龜本町石町堺所

葦原町芝居日本橋辺近野焼す○十二月柳系土手下町在の内瀬田町

二丁目小柳町平永町小北側を取拂りて外村田小代地を賜り明地中

成後小叔藏を建らる 町令所相務の 遺坊あり ○月日儒師原敬仲卒 名恭胤雙柱の二 男あり又雙柱名ハ

榑号尚庵明和四年九月廿日卒ハといふ約近吉祥中ハ 川泉も小葉次が小漏せし家よりみまるとハ

同 六年甲寅 十一月日

正月十日未中刻麹町五丁目秋田在何某といふ酒屋より出火烈風より

山五所社水田馬場霞が空虎河内外様田辺法度藩邸救字敷焼幸梅

河門焼壺宿下日蔭町新梅芝新瑞座仙臺會津家小一田焼亡せり

○正月廿日佛人金羅卒 号佛正堂也 小葉次 ○二月廿八日儒師吉田子方卒 根 岩

吾性也 ○三月幸橋河内外兼房町和泉町船泊町備前町伏見町若右

堺の町久保町左左柴の町小の内火除の為町家を取拂ひ異地とせしれ

島崎の所を以て武家地として在りて外へ移されては所へ代地をあり

○川口善光寺如來開帳糸指羣集して川口の渡へ船西渡り怪家人多かり

○四月二日亥半刻吉原江戸町武丁目より出火一廓焼亡後宅田町聖天町の者死町出

○四月十七日青山梅窓院主蕃山和尚寂詩及ひおせ ○四月廿七日儒師常

野子徳卒名義直丸山本村より小森 ○六月十日儒師街角里卒清葉よりやや ○八月十九日

國学者林浦島卒林和助号林居士備後院より華以男を本校より文化五年卒 ○秋草野の格構の内匠製

送る格構をくく七掛るを奇巧あり文化よりてえの如く格構をま ○十月晦日舟人伊波松

軒卒号倚松庵青山梅窓院より華以 ○十一月三日子刻大地震 ○十一月四日篆刻蔵六居

士卒号所云山より華以 ○十二月廿九日狩野永徳高信卒卒年深川 ○江戸地誌

号巡折所を定む号ゆきの松多島の菓より記あり ○四神地名録字本成古本新黄薇山人編輯を郎の名に記あり

○出羽園より大童山文政郎出十一才肥満して廿二歳月より角力を取一が年

長くて弱くあれ ○當道大記縁成 号本一再一回自井天大社後海島源花若

寛政七年乙卯

正月九日谷風梳之助終は十才才仙臺華以江あて具具あり角力元あり ○正月十日西小大風市谷折丁

より出火影焼多し ○二月十三日書家細井竹園卒名庸福波舟を八十才あり浅葉若思より華以

○三月十八日より二十日浅草寺觀世音開帳風雷雨門再建成る二月十日祇

々安重以 ○六月七日儒師清水江左卒卒年才下谷の商家大政師 ○六月十五日

夜大雷廿五夜一落ると云 ○七月八日儒師市川雀鳴卒名匡孫多門八十才西澤光昭より華以

○七月十三日星月を費く ○八月七日梅柳軒重明卒名修田主水といふ上州松井田の産者の院月

師の門人ありて和名あり寿七十三 ○八月十五日深川八幡宮を秋子町より

谷中天王寺中へ移す華以 出へ練物ありと云 ○九月十日儒師三浦瓶山卒名衛貞格左兵衛中野の住者より華以男を其山といふ

○秋凶化米穀價登揚以 ○九月廿一日青山久保町熊野権現祭礼産子

町より出、縁物を生む ○十月十日太田大洲卒 七十才名徳元中新法を以集

寛政八年丙辰

正月白牛酪賣弘の事を令し 享保中房州嶺岡小白牛を放養せりて白牛酪

七千餘頭ありしを依て授解の乾酪を製せりて賣りて世に救ひあり 制法を令せりしは僅小三頭ありしが此代は五

〇二月谷中感應寺毘沙門天開帳 ○夏先口新田町神楽帳 ○芝泉岳寺

釈迦八相曼荼羅開帳 義士の遺物をとせり 〇四月十二日狂哥師兼楊菴

先卒 松壽寺古佛の約迎 ○六月九日有越明神系礼神樂を演じし縁りの

お市 〇六月十日書家澤田東江卒 古才深鱗二号五向

〇九月本所小古銅の立不建つ ○十月四日松汗軒名貞雄君卒 山人松文二并一の小本

〇十一月琉球人來朝 正使文宣見王子 八十四才

副使安村親方 柴野彦陣琉球全 ○十二月六日儒師黒沢雄岡卒 名萬新 松右仲

同 九年丁巳 七月望

二月廿八日特野洞春卒 名英信上世 ○春三田魚藍親世君卒 〇水島江

の島舟才天開帳江戸より請入る ○四月廿七日画人三輪花信齋卒 名

牡丹為某小舟へ咲くは物群集せり ○六月三日胆分師并小戯作某の

〇七月六日大雷所小落る ○七月十日中村佛庵景連 書を著す

〇七月十日中村佛庵景連 書を著す

〇七月廿日

〇十月廿二日

〇十月廿二日

〇十月廿二日

〇十月廿二日

より出火葉研堀の辺より大川を越深川六宮堀八名川所へ飛海辺新田本
場追焼亡○十一月廿二日武器吉実若林赤香山卒 名長俊格一学不常天皇中
了院小妻以

○十二月十八日醫師宇田川玄隨卒 名晋号樞国世系中
安院又兼男を云真云 ○十二月廿二日能人

妍富津富卒 卒七十九
若妻若小妻 ○東海道名所圖會六冊梓行 林里藤高著
名宗合画

○和漢年契一卷梓行 坊州の人高親著本草小本二冊あり又寛政十一年坊州の
人小く惠光子編和漢年代壁要二巻を梓行す

寛政十年戊午

改曆領仍寛政曆と号○二月十九日能人小菅宝馬卒 一日五十九日身歿一
年堂と号七十九

○四月金彫二十六森英秀卒 二十九年
号清海 ○五月朔日名川伸より縣

より長九名を大宮を大餘あり 或以何日もの中号あり名彌如来より小開結あり
所境内の上小亂菟を以て大佛の像を造り相由
之を名にう海より

○六月廿二日画人梅里山人卒 名因洲画師あり
中の名成松と小妻以 ○七月より深川新大橋

の向小粉菟を建ふる此所の所家牛込音町の辺あり代地をりあり

今牛込岩戸所之○九月一日儒師若田望暎卒 卒八十五
号中火將も小
妻以

○九月十一日狩野永賢泰信卒 ○十月廿八日茶人守屋宗在卒 号彼月菴
西乃小妻以

○十月廿九日初夜より以下より星多々飛んく夜半より小室の氣

毛一面小雲の落るう如く見えし之○十一月三日金星の飛るる所の如く

○儒師岳麻谷卒 名之浩稱岳麻谷
七十二才月日不詳 ○十二月十二日狂言師兼樂師の卒 六十二才
名山傍

女身辺二十騎所不位者山青居る小妻以
辞世執事名の如く安房は終るる若野の權吏料の月

同十一年己未

正月廿九日二河所をう月より出火神田辺町極焼亡此後豫倉河岸

町極を十間通り録少げあ成る同河岸流還慶る ○二月十五日三圍稻

新開地 奉納造り物ありたり日幸指白木極より又寄頼めて強る牛馬本賣の本偶を
収む開地の所ありををつく此の始あり系清奉を名をりおひく

○聖堂河再建境内廢りて大度落以 ○湯島風閣湯島山修驗 觸觸 青山

久保町移る湯島 小町の 龜有町移る 代地をありりも 以時あり

○三月後行者 千百年忌勅し 祿ん 大井の号を揚る ○靈岸島埋立

地小 蝦夷地産物 倉新 建止む ○夏寺村 法泉寺勅 勅る 園帳

○六月四日より谷系村徳間 長命寺勅 勅る 小向護本 の福人の面小 影る

見物多し ○七月六日夜大雷子 刻る 大雷降る ○六月十九日儒師佐久

文示卒 名雅 章善 山山 ○八月青山海義 寺檀 家和 泉孫 持右 清山 家

小一 比五 尼何 刑罪 の首級 六百 を給 る事 寺小 藝供 養の 塚を 建る

○十月十九日夜比ツ 時以 雨大 雷敷 る事 一落 る

寛政十二年庚申 四月国

正月廿六日夜谷中いろ は茶釜 より出火近 寺院 多く 焼る

○二月廿三日亥半刻回圃籠 泉寺町より出火吉 系京町飛 廊中焼 亡後 宅田

聖天町山之有初 所所 ○七月朔日より護國寺小 秋父 三十四番親 世音関 帳

○四月廿九日關其寧卒 卒卒 小日向稱 名ら 小葬 以小

花縣卒 六十五才妻 秋母 号号 ○五月十一日官儒服部栗秋卒 卒卒 五十五才在 保會

○銀座常是銀座町より蛸壳町移 る ○九月十日噴く 湖出市十郎

死各 中妙 福古 小葬 以卒 ○十月六日金雕工 菊岡氏祖光 仍卒 卒卒 ○月廿五日書家依久 乃東 川

卒名 茂之 本不 ○十二月廿七日書家稱系 華深 卒卒 卒卒 西福 小葬

卒写 本大 稿方 長著 ○今年富士山女 人の末傳 る以 ○浮世繪類 考成 写本 一卷 山東

著後 和邦 教道 考考 又武 三三 出入の 本乃 以漢 英泉 博補 七三 卷以 林

此年間記事

毎月毎日上野大寺遷座の時系譜羣集はる事寛政の以り始まる
 此時代名家△儒家山本北山龜田鵬齋・細井平洲・服部栗秋・柴野栗山
 古賀精里・杉井白蛾 易術 △画家高岑若谷・谷文晁・董九如・長谷川雪嶺
 鈴木芙蓉・森宗英△狂歌師・辰衣橋洲・尚左堂俊満 又傳世倫 狂言堂
 真歌・六樹園版盛・蜀山人・芍葉亭長根△浮世繪師・多文齋榮之
 勝川春好・月喜英 九植 東洲寫字樂・森多川哥磨・北尾重政・同
 改漢 京傳 同政美 蕙 慶俊満 高 萬飾北秋 狂言の物 讀本 多 哥
 及堂純後・榮松・長吉・榮徳・舟春童・田中益信・古川三察・堀等琳
 金長・志々狂言或名弘の物物小瀬人刑工の巧をつくり花簾を極る事以
 時代より盛なり○曳尾庵の杖衣小榮・學医の始祖とせらる中川須菴志休
 子一が果さば生後奥平彦の侍医前野良澤 号 榮化 小半ひもあより中門

人・松田元伯・宇田川玄隨・桂川甫周・大槻玄澤 あつた のり大ふ若を
 此道なれりといふ○浅草寺隨才門前の茶店輕波屋のおきた茶研極門高
 島のおひき芝林明子月兼奉のおとんこの三人の英女の字えりて隱岐といふ
 ちんは店小憩ふ人訂もさすべ○吾系府屋の若女花麻老母お孝人の字えりて末節
 の清人費晴湖・倚陽 あかり ありてこの孝娼妓が事とすこれに賛し一するあり
 曲亭の草雜の紀ふ載り○婦女のたがさしふてびを争り始む 近 京中始り
 ○堆朱漆衣敷りせる○鞘画の戲はりる○いつの以り始り一西が系
 小湯島の牡丹屋太右衛門が別荘ありて花櫃ふ紅白の牡丹英をゆきそふ
 盛の以貴族羣集せり 文化の始 ○酒樓は於る書画會を催はるは以
 始 近 以中野の名家書畫の書画會の寛政の以謙會の ト 思斐の玩ふ切り組燈
 籠儉の上方りの物へ夫取始り系の生洲大坂の乙満祭の國杯を重複せり

寛政享和の以茲毎政美多く画き又此舟も續ひて画りり文化のいり
新川國長豊久以伎子工風を以て教多く画き玉せりを持今より
年々樹出たり○人物を戦山水を解茶象を四角に画くの或は行り
書翰角を珍を携あり
商より寛政の事より
○寛政十一年の事より王子村料理師海老や扇屋に
世にあり○
○寛政十一年の事より古の合戦武功の次や或敵討空の歌を以て童児の
世にあり○
○寛政十一年の事より古の合戦武功の次や或敵討空の歌を以て童児の
世にあり○
○寛政十一年の事より古の合戦武功の次や或敵討空の歌を以て童児の
世にあり○

享和元年辛酉 二月五日改元

正月十四日俳人椋茶菴平山梅人卒 大久保泉福 ち小暮久 ○正月十八日画人小山寒巖
卒 名孟照 楊坊 法源と小暮久 ○二月二日茶人千柄菊且卒 西河岩町の坊にあり 徳川法禪の中納院小暮 ○二月十七日一乃
流劍術師中西忠太卒 根岸若性ち小暮久 史傳碑文に記せり ○二月十八日より十九日の日浅
草うね世音閑帳 ○龜戸天満宮閑帳 ○目黒不動寺閑帳 ○四月より

深川法禪寺より武州熊谷寺孫院如來蓮生像小閑帳 ○五月四日大雷石

三蔵 ○五月十日日官医家紀永壽院元徳卒 七十九才名元真号藍庵 平塚城官ち小暮久

○六月十二日板橋宿板橋水車の下より奇魚を獲り老五尺一寸横二尺

六寸四厘あり僅小三寸餘巨に微目ありと惣身色栗のこころと云はれあり

○六月十六日より回向院より松山法源寺新迹如來閑帳 ○六月廿九日儒

師細井半例卒 半例は名種氏号如來林長三年 法源寺町又松院小暮久 ○九月十八日聖人蘭文祥

卒 小越の人法源寺敷中坊法源寺小暮久 男を蘭文良と云医師あり ○九月十八日金離工岩本昆寛卒 五十八才 松林三年

○孝義録五十巻板行 学問所所板行 ○十月十九日夜元坂田町焼亡

○十一月廿五日夜神田蠟燭町より出火十四町焼す

同 二年壬戌

二月廿五日若神九百年冲忌 ○親町平河天満宮閑帳 ○二月廿八日より柏木

浅草の中梅園院にて相馬大山薫祐泉子不安親世吉閑帳 ○六月朔日より
日向院之物朱光昭と雷雷親世吉閑帳 ○同日より浅草傳法院より信州
善光寺如來閑帳 ○月十日より卅日の月本所一ツ目辨才天閑帳

○六月十一日心学若中澤道二卒 七十九才 澤川後江 妙善寺中妻以 ○六月廿九日國学若大塚

嘉樹卒 稱一卒若馬号甚梧七十三才 八十三才名伴母孫才也 其妻中若若院小妻以 ○辨才水永大琴卒 八十三才名伴母孫才也

○七月高嵩漢信宜得々翁の圖を画く浅草親善堂の外障小掲く

○七月朔日より浅草寺中金毘院にて相馬大圓寺親述如來閑帳

○同日より永代寺より常陸國河波大杉大明神閑帳 ○七月より赤本於

るあて水戸磐船船入寺如信上人像閑帳宝物多し ○七月初日より浅草

寺内正福院より越後頸城郡尾美社大國主像閑帳 宗居菴日の丸の 名号を掲せしむ

○八月折系堤の例小細藏を建らふ ○八月谷中延命院住持日道傍律

や把一巖科小巖せしれとゆえに ○十月朔日伊豆大島焼二日江戸中

原降 ○十二月挿花の師笠翁舟乱を卒 八十八才翌年七月門人小浅草奥山(碑せき) 子若大人の文あり

○後の昔物造成写本裏 てんてんのおりち西条後江のぬいしりて 送りつ葉成之宝曆と兼の風俗をまうけ ○今年二月中旬より

浅草回圓立花廣所下藩徳吉太郎稻荷社利生所とありしに江戸

並近在の老若集清羣集はるる暇 游り羣集はるる暇後只 朝日十五世百午の日開門之 相三文化元年ふ

いり糸盤易一奉納物山の如く道路より酒肆茶店を列きて旅ひが一二

年ありしと自註止し 年時の草紙一枚繪小唄の草紙ありしありし文化元年把一上人 画今の時『繪せむらひ』よりいふに下由太郎と云ふ是れ也

○群書類従板行六百三十六巻 稿檢校輯裁あり 此節より進み上未成

此年間の記事

小金井村の櫻寛政の以り練る人もありし由古松軒が四林地名録より
しりしと享和の以り 證人筆客多し集ししと毎集遊覧の事とあり

乃其又の冊子一救物
多く刊行せり

王く倭る己の所来うさく花の雲に中や水のひきまをり 千巻

○せんちや 養父は今行る ○山東系傳曲馬琴が漢本受双帝行れてぬこ

教篇を捧行す又系大板より画入漢本新化何も捧行して江戸下せり

之條江戸戯作若く式亭三馬六樹園版盛小枝の教せんちや 感謝亭泉武

十返舎一九振筆亭漢海樓馬馬高井崇山せんちや 山東京山 芍薬亭長根

折多せんちや 梅暮里谷峨神屋蓬州南仙笑楚滿人東里山人東西養

南北せんちや 其外多せんちや 京大板作若く要致多思卯合浦免月優々彼折浪文麿木の編匠

合川紙和相好齋守書信せんちや 京川書秀速水美屋被未手押板あり書院板画入られ

仕組むりせんちや 江戸浮世繪師の葛飾北舟辰政せんちや 後小板戴斗又為一と改 歌川豊國

公豊廣蹄鞍小馬雷剛せんちや 葉画を 盈鞍北瓜せんちや 閑く樓小嵩せんちや 小書せんちや 上子

菱岡北溪 ○北尾蕙亦畧画式と号し浮世繪の畧画を工せし粉色摺

の粉本教篇を捧行す ○浮世繪師二代珍来喜信といひり其の長崎小島り

蘭画を学以後江戸小島り世より名を司馬江漢と改む又銅板を日本

小書創せるも此人の功之 ○江戸近山水の遠系を画す一板繪を ○京和山東京傳の編る

近世奇術考骨董集二部の隨筆世に流れしり此神裁にあつては

戯化若各隨筆せりし事始まり花れも系傳の作小並ふり花あ

野鄙あるもの多し ○原舟月離人形の製を改て古今離と名づけせり

もつり ○京和中あやねん葉嶋といふ人寺島村小松園を設け四時

の花を載り遊賞の所とせり奥州の人あり ○江戸小島り世に小住

天保の始終あり 葉嶋始或人名つけて葉嶋といふり文字をいそぐ改りたりは花を載

所の奇小 ねも引く事もはなれりし事は花を載りたり 小書

考のふり活小ねひく袖巾何より多事ありあけり 自寛
何れをもとめて、わくわくやうめはあやま 不白

或人の説ふ此地の舊名を多雲屋敷といふ昔豪氏多雲二并を清河南五里河友三并は三并よ
の人位とてあうり中昔提より白雲の後法皇ありとて

○比深子拭られ手拭巾多く出する ○散尾甲價次不貴くありるれあて

質物の拵并を製以 ○藤繪の紙昔の墨を紙を切板外岸せ四つ小刻て

笑利の如くあさしは焼小写して五藤の糸乃姿を九尾の瓶小繋く酒

顛童子を鬼あうりけの影を、何りう京和中都樂といふ若工キマン

鏡といふ目鏡と稱しヒイト口一輪をの給せり自立小物うすの二更

とくし一写し繪と号して見する見より心算世及れりは身小巧とあり

其の意も多しあれり 此物集今の嘉永元年七年九月 ○山谷町八百在若江節が

料理仍る深川土橋平清下谷龍泉寺町の駐妻多文化年中より盛り

文化元年甲子 二月十九日改元

二月四日より傳通院内編製院大建元并改号閑帳 ○二月十七日昼に的以

西南より赤白(白き)雲出る ○三月朔日より深川八幡宮閑帳 ○四月五

日より例書并大天閑帳 ○三月より護國寺觀世音閑帳あり四月十三日

画人北舟本堂の例ふ於て百二十多雲の紙(半分の遠慮を画く

○三月十五日より回向院より同宗祐久も靈宝閑帳 ○小日向 大日 妙足

院大日如來閑帳 ○三月十九日後者氏十代桂葉卒 六十 ○四月十五日

妻息嫡孫林閑帳 ○同日より浅草清水も親母より再帳 ○四月廿日

三日の乃十一代月中村勘三郎存あて嘉狂言與り 寛永元年より
八十一年あり

○六月朔日夕七時俄然大雨降霹靂大あり人々魂を飛ば 以時者羽下あて
七人の女兒を空

中(卷上)翌日死廿六日 ○八月四日俳人素健卒廿六日 ○八月廿二日画人高嵩

谷卒七十五才名一雄号房翁 ○八月廿五日玄々一卒字三才俳諧を好む一人

○浅草藪の内南部駒の市毎年行ふ一過年より止む是より後の所願

藩内(若以) ○十一月廿二日画工依服寄雲卒名貫多称倉次号中岳堂

○今年諸國暑熱之

文化二年乙丑 八月間

二月十五日より根津権現半比十一面觀世音開帳 ○三月八日より谷中一

宗寺祖師開帳 ○同日より飛戸香取社境内あり京於西鴨清涼山金

毘羅権現開帳 ○月十二日より回向院あり青山若光寺如來開帳

○月廿二日より氷代寺より玉川明神開帳 ○月廿八日より飛戸赤骨寺不動

寺開帳 ○二月芝神宮境内より勧進南力あり時月十六日八日自具行

日水引といふ南力取給の若と喧嘩不及四ッ車一人加勢一々大勢とわ

あつて開帳開帳なる ○三月中旬分寄芝居棧家あり出立の女あり

芝居主のこれを告兆とて祝ふと云 ○四月朔日南宗川海雲寺千社荒神

開帳 ○五月俳師神田菴小知西國物味の柏戸小龍と八十八齡の賀遊を儲

仙ハ沆瀣朝霞の氣を吸く長壽一我ら

月 雲や吾菴ひのき 花 小知

○六月七月あり ○六月十九日生妻村辺の川若流あり時人骨

出する縣一是古戦場の存ある一と云 の善持なる枯骨を

浅草華籠と一収め墓を築く一は徳形成持と云ふして七月より

幕備群集はる事駭く ○八月七日篆刻家島蓼舞卒本不注

○八月廿七日儒師神谷東溪卒名謙称翁云 ○十月十七日書画師

定河津定通卒

此の如き者不葬以卒母の人より曳尾為ふ
含客より一人あり購餘小録の端あり

○十一月深川三十三

間堂再建成

翌年宮の二月
葬始あり

○本曾法乃名所園令持行

秋里藤島若
為村中画

○十二月廿五日画人井川雪下園卒

名貞孫源三清坂中若光子
葬以

文化三年丙寅

三月より永代より成田不動寺開帳 ○同月より灌玉より河内の小

葛井寺

十一番
千子

親母寺開帳 ○三月三日江戸又火西南より東北一飛入

○三月四日昼九時の芝車町より火火坤裂風あり七宮堀田町の通り三

田薩呂家江尾浦幸芝迎金枝

傍上ちハ
巽隅斗

神明宮并門外宇田川町通り

左右出雲町竹川町通救急堀所門内外本枝町三十万堀枝本町系橋

より日本橋迄左右上下位より日本橋小ハ保廣より常盤橋迄門外并堂所

本町通り西ハ縁倉町より三所町稚子町佐柄本町筋遠橋迄連東ハ堀田

町新堂物町新枝本町より堀所葺屋町并芝居為座ハ跡より又下

富沢町橋町辺横山町馬喰町辺神田川を越く為ハ佐久万町新永町

和泉橋ハ佐士町通り三味線堀廣徳寺前より町通りより本町筋より裏通

近東ハ浅草河門外より新堀通り元を越東本筋より若徳寺の辺迄焼亡

此等小色され武家町家一字も残る事あり翌六日の昼は時よりのり

て漸く終るなり此時又為階焼九名武里半幅平均七寸半備度藩邸八十三号

と院六十名益寺名有る神社二十餘ヶ所町救五百二十余町と皆ゆ又

焼死弱死千二百餘人といひり此火ハ何ひ一賤民ハ救の小屋十五名迄不

達くあり小憩ハ一々食物を給る此余の貧民も米錢をありし

此火災の時の雜説曳尾為の承衣ふとくある也

○四月は月五日六日の月二夜三日日向院より火焼死の業供養の事を

令せらるる ○四月朔日儒師吉屋昔陽卒 名扁秣十二并七十三天
吉羽枝林と申す

○辯秀堂何某弁天を信し金光明最勝王經を書写し清淨の地へ

納んとて上へ蓋き石を求ふとて石を乞はんとて亀の形し一方石を乞はると

堅三尺 江の橋一舟納り ○四月廿八日算術師小川秀藏算算卒 中野室
泉ふ

○七月大師の系弘法大師因幡 ○十一月琉球人來聘 二夜 讀谷山王子

副使小祿親方 琉球人比嘉親雲上十二月二日終れりは年園東と云々其年親方と云
尺小滿つ彼國人の南方暖帯の所ふせれ別と云々傷まると琉球

大田と云々送の時のとあると云々 ○十一月十三日夜五時草屋町海峯 あつし師
友九市

家より出火して堺町より町大坂町志左衛門町野崎町坊売町追焼る

○大坂新町の石屋甚蔵

といふ若江戸より日本提めて盜賊と遇儀草親世吉の利益とて又の疑とて

ぬれり多かり翌文化四年法橋周南とて其圖を画し其案の掲ぐる

ありて近以深 ありて近以深
世捨不政より ○今年米穀豐饒とて價下落をよめて十月市中分限不應とて

買取を令せらるる ○十一月十三日名師丸毛権左衛門卒 名利通牛込系町
津雲と申す

○十一月十四日儒師崎允明卒 年終園秣十六天
巢鴨系後と申す ○十月の以より菅原河舟書

画展覽の會を信し落款を添へ 秘く鑑定を小低ふ記し筒ふこめて

後ふとて ○江戸圖副說写本成 大橋方長著

文化四年丁卯

二月十四日明六半時東より西へ光物飛ぶ ○春雨少く契風の日多くなり

火事なり ○二月廿八日より回向院にて幸子不勤院不動尊開帳 廿二日江戸利志の
日攝中と号す

○この時 町火消 の大喧嘩あり この時
町火消
の大喧嘩あり

二月四日 芝山目 出火 脇坂 津島 敷地 町火消 の大喧嘩あり

○二月の頃より品川宿橋向南の方 齋屋何某といふ驛舎の地阪盛女今も廿五歳 齋府中の女
 りとらふ衣類対文ついでに熱天 六尺七寸容色より珍しくもそのとて遊客多く此家日夜
 後二年まで廢れ言ひ己の妻ありを後流儀と改め後新編着の向く大女の力持と
 考へ着物あはれ其藍をいへ流儀の灯を消しは斗儀一筆をぬき付て文を
 書ふといふ又あは
 廢小階も出たり
 ○三月朔日より永代寺より相州鎌倉補陀洛とふ勅書大日
 如来文覚の傍園帳英同とあり宮根山権現の帳 ○三月九日哉他若甫仙笑
 楚満人卒 楚の老院 小森氏 ○三月十日より大塚復國と親世とる園帳 ○四月朔日より
 湯島社地より大塚大慈と見耕菴火防造酒地蔵の園帳 ○同日より芝
 愛宕社地より都築那折本村法島明神園帳 ○四月朔日より浅草八軒
 寺町大仙より下総中山法華寺奥院祖師園帳と共小京都頂妙寺二天
 五開帳 ○當夏為園橋辺大川夕涼少 ○六月朔日二日大石金銭傾る如じ
 ○六月廿日中平井村百姓文六といふの逆井村の川面をを蜆を取るとく

菘の内小日蓮上人の像を好て平井妙光と小納む ○七月十九日より深
 川浄心よりあき身延山七面の神園帳 ○五月朔より猫死する事駭し
 ○八月朔日より二十日のる沙屋親世とる事帳 今年法堂修復成る念法堂のあき 坂根持親事帳 ○永志事波靜法堂
 著 ちよと ○八月廿日より回向院より下谷通新町園通と黄金親世とる事帳
 ○八月六日算初師若田権平定資卒 号権山 旧谷西意と小森氏
 ○八月十五日深川八幡宮系終 隔年小法一けり十二年より喧嘩を休むより 小今年よりあき出る産子の町と案日記ふ
 雨天より十九日不延の同日産子の町より踊り遊物未せ出せ江戸申の
 いふ不及近在より見物出く是は時靈巖島の出いねり物永代橋の
 東詰を来り一時橋上の住来群集の以中より深川の方より
 なるは三名計を踏崩しより以骨崩れを治より来るものもいふとる
 事ありい中より上より落りて水に溺る助りい稀ありて川下のあ

層とありし九子五百人階といふは時とちまらぬ戸中(時えて名物小出)る
 家族の若ん大方ありて新大橋の通路止りて由國橋を渡り途ひよる
 りの昼夜引の切らば 官府より厚く命をくれり水中死骸を引揚り
 め男女老少を分ちて大強小様並りて家族乃ち来りてあつて野鳥
 送りてあはれ慈傷のさむ目も何てくれぬ事ともありしことぞ
溺死の家族並りて
 いは救の物ありしこと

○八月廿二日 九ツ崎魚竹橋辺古松大枝折る
この時類末夏の浮橋といつる
 星紙小妻く祀せりとあむ

○八月氷川時神中社造管より年何とさる小崩りり○此以西の方小笠
 星あり○帳夷地騷動あり○一石橋の橋杭嫩木の榊ありし一箇小葉を
 ろき稚多あてはす○九月三日酉の刻小東より申(光り物形小大)鞠
 めく青とあり○九月十二日神田時神中社産桑二三四町二丁目二丁目
 より子供お撲せぬ○九月廿一日青山慈野松現桑礼出(後物出)

○十月四日茶人川上白卒
九十三号号孤峯又田松始不羨と云子の
 如心舟の門人中古千家茶の閑基あり

○十一月方海海上ありて蓋屋と云海獣をけり
谷中安立ち小葉以墓不天時元年生す小管むあ之中央小石地龜を色火袋小妙法と鶴
 花左ふ戒号せあるし一碑あり石小鐘地又長のかさりの剣を推(次)上小巨心といひきれり
 石像とせり何の
 板あり初り

○十二月一日官儒柴野栗山卒
七十一才松表補号古愚
 大塚江原島小葉以

○十二月晦日夜永回馬場火事
名天祐 称忠在法の
 三田若村若小葉以

文化五年戊辰 六月間

正月九日十日大雪降五十年來の雪といふ雨と折折もる○正月廿一日画人行次
 養溪卒
名准房 侯室
 名發る小葉以

○二月朔日夜大雷○二月十三日狩野養川院准信
又文化七年午の
 四月より開帳あり

○三月十七日より市谷折所光徳院觀世音閣焼
又對の田方より
 廣尾光林若小葉以

○三月七日画人岡田陶丘卒
今年の内縁之常丹水産の戸保川安宅の住人
 保延貞といふ人建るあり

○日墓里小位日野資枝の所寄の碑を建つ

奉あつ日く一の里の花の以て穢穢集て佳業を賞さるゝ或のふよあともく
あれはく咲く花の多とひくふ日く一の里とあつる

○四月九日御人松露庵を碑卒 慈深氏大塚 光徳院小葬 ○五月十日より浅草大仏を以て徳念

妙隆を祖師開帳 ○六月初旬より雨勢く降り十六日より十八日連江戸

及近國洪水溢る米穀價甚し ○六月念貞氏に救米給せり賜ふ

○閏六月朔日日向院を萬西半田橋を開帳 ○閏六月二日佛優尾

上松録 四十 日向院を於て昔の御優小を小平次が幽魂を吊ふ以て施祭

を修せむ人々群集はるる難くありて後彼を事と狂言ふ取組身行

ける不見物山をあせりことよろぬ事ありく崇あらん事を忘れ其

后のいさふ小を名を喝く此れをを催はるあり ○壬六月十八日より

廿日連大雨降再洪水溢る ○七月日向院を野丹那須野光昭と玉藻

社開帳 ○七月廿一夜小入雷少一鳴甚六時大雷雨を傾つが如

○七月廿五日昼九時より南大風雨家屋を損下怪家人多く豆船楯船

七十餘艘覆り又酒船入陸絶て市中酒あり ○八月日向院小於て昨年

永代橋水死の非一周年忌法事修行 ○八月小いりても雨勢く降り七日

八日大雨江戸法園洪水溢る ○九月二日加藤子松大人卒 七十二年本不日向院 小葬儀

○十月芝金杉山珠を七面大明神拜帳 ○十月四日この日浴湯をれば壽

を減ト又即死するよりして半銭入湯する事あり元文元年の以もかゝる

事ありしとぞ ○十月十日書家細井錦藏卒 名知雄孫松右衛門廣澤の孫あり 幸力村清形も小葬儀

○十二月十九日書家藤田赤峰卒 名順祐郷右衛門 藤田のりりもこのこといふ物 麻布園林も小葬儀

文化六年己巳

正月元日大風甚六時左内所より吹きて万町四日市小細所照降所

新校本町堺所葺屋所為塵芝居經彼町弓砂町元濱町辺武家方夫
より為國業研埴矢の舎跡小いより飛火して本町表町辺焼亡一夜九
半時終る○正月雨降る日烈風中て火多きあり○二月永代橋
新大橋大川橋交負人止る葺垣且船棧仲間引交不成り液跡止む

○二月五日登九時半辺火消屋後より寄番町の系近焼亡武家方多焼る

○二月十日八日里妙隆寺祖師の系焼○四月より仍徳徳願寺法院如來

開帳○三月廿四日約辺田宗寺にて八百屋お七が百廿七回忌法事あり細雨降る

清華集夥一為葺ぬりれと系○四月二日儒師保東藍田卒名毎年林金茂七十八才約辺

教進岳といふ吉祥中洞ある小葺屋男や○四月より七月近江の島本宮岩屋兼才天開帳あり江戸より

系諸縣一江戸少もあり兼才天開帳あり○五月六日儒師泉豊洲卒まへとまへ

○六月六日より日向院にて常州真登郡船玉町村

開帳○六月廿一日官医桂川甫周卒五十六才名國瑞号月庵老人○六月初旬

兼加在久場村古院跡の和木様へが花多き咲り江戸へ見物人多り

○七月坊場林明宮の内にて武州河嶽山採麻○七月十九日より本所

本佛もあて甲州石和遠妙も祖師開帳○七月深川宜雲も小英一

蝶の草塚を築碑を立る市野光彦文を撰一英一珪これを建る○八月廿二日夜

亥の刻より廿四日近大風雨家屋を損る事夥く火の又の半鐘を吹落り

伊豆房徳徳人多く溺死○八月卜者成回朝辰鈴々森八幡宮境内

小狸塚を築く○今年諸國豊化○九月朔日より二十日のる牛込岩

戸所南義院兼才天開帳○浅草報恩寺田系所向より今の所へ移る

此時本所前の地所度ぐる○九月廿日詩人谷林鹿谷卒八十一才名幸備祿十

浅草深堂次郎画人文晷の又之○九月五日儒師篠本竹堂卒名藤林久二所

○禰布日記三卷字本成 右田中畝先生公用年々 ○十一月三日大雪十二月近解冰

文化七年 庚午

正月廿日より浅草大仏より小幡塚系根奉り祖師開帳 ○同廿七日物有家

小野蘭山卒 八十四才三十七才五孫内 ○二月廿日より川口善光寺如来開帳

○二月廿五日より平河又満宮開帳 ○三月七日より田向渡より越後國下宮寺

大目如来開帳 ○月十日より浅草玉泉寺より鎌倉松葉谷長持寺祖師開帳

○月十五日石原徳水寺又天開帳 ○同十三日より十九日追遠法唯念寺あり月廿一日廿七日と

下野高田山如来開帳 ○三月廿日以後寺杉並より津福瑞積竹本位太史死 藥地本

某院 ○四月朔日より浅草折橋荷形社開帳 ○月八日より深川澤宮より新

曾妙院寺祖師開帳如来開帳曼荼羅を拜せむ ○五月十一日狂歌師萩野

屋裏位率 七十七才金取所不位以格大念の表位といふ事上 ○六月十日より田向院にて

嵯峨清凉寺釋迦如来開帳今年八例より系諸多し ○六月廿二日廿四日白

金覺林寺あり清心寺二百年忌修養開帳 ○八月朔日より護國寺より信

州唐光寺村元長光寺如来開帳 別當 ○九月十九日加菰遠塵無卒 七十七才二の

燕のつゝ丹青を巻く作文を以て佛像を画する人之服法被褥身を寛政八年成就し 五百

○十一月十六日東本願寺泐堂再建上棟の式あり 文化三年以後五年間ありて成就せり

此冬マクロの魚渾ある事夥し総豆ねの三初より

一日ふ一万本と獲るといふ ○十一月十七日儒師諸葛葉臺卒 名蟲号鬚髮

同 八年 辛未 二月間

舊冬より為候より正月十日大雪十七日大雪 ○正月廿四日昼四時

浅草茅町二丁目裏より出火表通りついで東河原折橋万八樓延焼九三

町小一町程あり早美度く生るる ○二月十日颯風申刻市谷谷町合佛坂

より出火四谷赤坂麻布西窪飯倉赤羽坊上寺支院三丁焼亡以是より
て死亡の若二百餘人と云々 ○二月十三日村田春海卒六十六才 錦織史一 小聚 後義村 平四郎と云 國學 小長一 和方を

閑情 ○二月十日と振津社内親世寺閑情 ○月十八日より護玉山内にて
世弘の志徳が賜ふと云々

積久松不親世寺熱閑情 ○月晦日より牛島長命寺年才天閑情

○三月十一日より池の妙善寺より滋及岩本実相寺祖師閑情

○三月十六日永代寺より信州戸隠神九院院現閑情別當 顯光寺

○四月初旬より風邪流行 「人のあり小袖の襟袂髪々々」
蜀山人

○四月朔日より回向院寺縁院如未并後會天満宮閑情 ○同日々茅湯町

茶師内之新座郡次上親世寺閑情 ○四月十日永代寺境内小甚居の夜やる後院
齋れて俄に傾き人煙多し即死二と

○保川仲所暨鑑養寺といふ人天發戒りといふ物とて尊本を

造りくまはる ○四月廿六日拉吉師千種庵恒海卒五十一才 松山中要助 号 龍舟と 六音林あり 今 寺 松福寺 小 寺 氏

○五月十日より回向院寺河及壺井八幡宮閑情有 際 ありて 半 途 止む ○月廿二日より

浅草新垣正行寺より常及大塔村正行寺大蛇倚成親寺上人像閑情

○七月十六日より揚場神明宮内天満宮閑情 ○七月四日画人晁有輝卒松町人 信長 小 寺 氏

○七月廿一日儒師宿谷空々卒名 慎 林 森 本 弁 白 泉 寺 小 寺 氏 ○八月上旬毎夜暑時山の方々雷聲

出中 旬 西 小 寺 氏 又 曉 あり 東 小 寺 氏 ○九月三日保川寺宿新武蔵屋といふ縁店より夫大烈風あり

為例五丁程焼亡 ○十月三日儒師宿見星畢卒名 九 林 三 弁 右 寺 小 寺 氏 儀 事 ね 添 寺 小 寺 氏

○十月廿八日東本寺新寺法堂暑焼成社延佛供養危傍者樂と云人語今

羊園山五百五十年の遠忌と ○十月十六日善六時之南竹馬町二十日より出火

風少中通り一山河岸一焼枝寺枝木町河岸迄出夜九時迄九十二町程焼亡

○十二月二日書家荒木通齋卒名 趣 之 松 大 治 丸 山 寺 氏 小 寺 氏 ○十二月十日夜九時之浅草折箱

武江三

十四

荷裏通りより出火為小風強く砂埴河沿川町より三筋町を越えより西福
寺唯念寺焼る○河割水川橋向より出火穀洲の辺に於て焼る

○江戸哥辭年代記刊行十五卷 立川馬馬作三序其居の基より記録す
今年より十二年迄迄下下行

文化九年壬申

二月十五日より羅漢寺まで岡山念佛佛河津院等末開帳○三月二日より信谷
長谷寺あり京清水と親世寺開帳 末清野一山開帳
商人仮やれを列す

○三月五日より洲崎寺
○三月十四日
○三月十五日より池の好音あり佐渡の谷妙照寺祖師開帳○三月十四日

より押上春慶寺善賢井開帳○高真木下川降光寺裏の通樞樹を多
く栽る○四月廿六日三高自寛卒 三十八才名星雄稱吉長三高也
又稱吉あり淺草新地若照寺小葬

○五月十八日より芝巻宿山寺より下総花寺

○五月廿五日觀相名人石竜子法眼卒○七月大水

○五月十八日儒師山本 山本

北山卒 六十一才名信有稱其六
石川系町中念寺小葬

不切あり○七月八日法如英慶和上遷化 信谷村宝泉寺小葬
廿五

○八月廿七日
○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

○八月廿七日
○八月廿七日

風小多り田町一飛小る乃百親言述一口丸町山の宿の辺迄焼く川
越く本新番場所の辺少く焼く 吉原丁後宅田町聖天町丸町山の宿三谷
深川小六を承あり翌年八月元北へうつる

○此秋芳桐町二丁目三丁目何々の西の裏子ふ上水の勝りせりて焼く
ら玉有と号ひり一丈五六尺幅をり降りた左右山を作り四時の花木
を栽く例ふ茶店をせり往來の人乃休之所とあり又保の始より廢り

深山より移る勝の玉をこれより移るるあり月の内
りふそるるくも芳桐の表より移るるあり備の岩浪 縣磨

○十二月十九日書家箕田牛山卒 号福源亦麻布宗嚴も不詳
長男は本殿吉名藩号篠山と云 ○十二月巖

寒く國川氷あり○十二月廿九日夜五時前桶町より出火西小烈火風南傳
る町より系橋竹川岩金古町迄焼亡○此以カラシ糖といふ癩のくまより
賣街せり 蛇の目の故有る狗歯とくひ菅笠とくあり網袋を符賣ふ声ふ
カラシトウと唱せり漢字を記す不舖と申せりるも程なく度り

文化十年癸酉 十一月閏

二月二日夜九時三三町武丁目裏通より出火して武家方四町程三河
町一丁目三丁目皆川町永富町松下町鎌倉町新草屋町新焼夜明て店
移る○同十五日夜亥半刻下谷所成道美田豊前侯の南満長屋より出
火烈風ありて石川侯所後を吹越し一丸茶店の裏よりきて左右ふひり
りり向例より仲町南例移りて焼失池の端裏通り加藤侯長屋迄西の三枚橋
向料理屋松坂屋の例より呉服店松坂屋の例より上野町山下迄焼く

○三月より淺草寺念佛堂より常州康島太神宮不断經所廣徳寺赤童子
開帳○三月八日より池の妙音寺ありて二の江妙勝寺祖師開帳○三月より隅田
川本母寺本寺并梅若丸像開帳○三月菱垣止松橋仲間十組同座株式
定る この時の人数
千五百卒也 ○三月廿日より久々保西向天満宮開帳○四月朔日より今
戸八幡宮開帳○五月九日より淺草寺先本覺寺祖師開帳○夏芝愛宕山

控現開帳 ○五月愛宕山別当山福寺にて長鬚會あり秋田産の侍醫大関
大申といふ人雨この控現をきき老人を集めて書画の命を信以りあり

七十まゝとての事を信じてゐる人あり

○五月廿日より五日の百九代目森田勘弥壽程言身行 ○五月廿日狂言師手柄

岡村幸 七十九才平沢氏名幸富号月成 ○夏渡草古老女糸乙の池水車を仕置人カを

用ずしと人形を踊らせ鳴物を鳴らす見世物あり ○六月二日より回向院より

常則筑波山権現開帳 ○六月初旬より蕎麦を食ひ死るといふ

俗説仍れ蕎麦屋交小集ひあり ○八月八日書家大橋重雅卒 清康為福子中

○十月廿八日法橋五松雀林翁卒 為之出羽玉柴次の人寛政中江戶より来り

性せあり五松を氏と以再びおまじはしり ○十一月九日明六半時末より西方六二尺餘りの光物飛入

形中徳寺と小集ひ文化七年菅家秀則演義一巻を著して挿小あり

肉翼の ○十一月廿八日夜九時は品川宿橋向火三所の除焼亡せり

○同月廿九日夜高砂町西側より火高風烈く電河岸一山又小風ふりり

和泉町末例より大坂町塚町葺屋町為座の芝居難波町より町末物町

稲荷堀酒井彦山中より小室より翌朝六時は猛火す ○十二月二日善六時

より花川戸町去年焼残りの家々音妻橋際迄焼亡は五十五餘日雨を

く日く小火也 ○十二月四日官儒尾首二洲卒 六十九才名孝榮林良女

○十二月六日書家松會平渡卒 七十三才名芳文林三四郎 ○吉原焼町八年以切小

ありてあり今年地盤の居宅一圍以こみより町名を唱ふ事あり

文化十一年甲戌

正月十日夕七時より俄小風吹来り雨と家屋を損み此日初卯電燈戸

妙義社系諸群をきけるが此暴風小家根舟猪牙舟殺艘没し七人多く

死龜沢町にて侍一人空中火上三に發 ○正月十四日善時八代洲河卷より出火

○正月廿五日重二郎田亀五卒 号清風館納通土物店 吉林子不葬 ○二月深川砂村元八幡宮

より午前四五所の名種木の八重桜を栽ふ毎妻遊觀多し

○二月二日より十五日の名河崎弘法大師開帳 ○三月朔日より永代まで成田

不動寺開帳 寺御城大徳灯米依違物未點しありは時より常病 同福不修と加一板引くと重歩のりこ下り ○三月三日より日向

院より中總村弟持寺不動寺仁王尊 大九尺 祀 開帳 ○三月六日夜大雨大

雷不三踏つ ○同八日より押上法恩寺にて永代國子祖師大基天皇御女親

尊法正三開帳 ○三月十日書家佐野東洲卒 名個彩母 正室吉不葬 ○三月十八日正六日

のり浅草親世寺開帳同日より一の権現開帳 寺外境内の神仏 二十三年目如開帳 ○同廿日より所

種八幡宮より後又子権現開帳 ○四月朔日より徳谷金王八幡宮開帳

○四月朔日より谷正法院福壽明神開帳 神田平永町小所所より大九九尺計りある坊 寺に造りし物の額と建の額とを納む細人

舟月の門ハ ○浅草おたけの影を用ひて 舟水あり ○同日より浅草金花院子安親世寺開帳

○同日より中野宝仙寺不動寺開帳 ○同八日正四谷新富子安福壽寺北十一面

親世寺開帳 ○同十九日より西新井弘法大師開帳 ○四月より七月中旬正戸

及徳園大旱魃 郡下門不雨也連て疫を播ふ ○六月十八日百瀬流筆道の師耕

元卒 長生耕雲門人あり今年七十八亦坂法あり 小葬以貧子三年人ありといふ ○七月朔日より日向院より河州

壺井八幡宮并権現開帳 ○七月系於上香羽村桂娘名代何某 官許

せり勅化の為武家所を巡行す ○七月より徳本上人小石川

傳通院より徳人小十念を授くる号穢の系諸草集聯

○秋護國寺親世音開帳 弟精群 集以 ○十月廿日夜上野所本坊火 ○十月書家

田中玉峰卒 名お則 林収死 ○十月正浅草寺奥山ハ謎坊主とハ小若如 代智あぞといふ者 叔と出十八九才

の盲坊主を座小ありてつた物より繼をうけさせて即座小し、若解得ざる時ハハ人ふふとあり

つた物とを傘米依菓子器物ありを飾り置ハふふとありといふり奥州二本松の産中

て名を重名との八重の雪の妙と 継ぎを解くよりん是を學ひ方りの向ふ必しも出されとこれ
あり及びよりあり 翌年其島よりけりて其の産小遠その雪とてて入少く 曳尾庵名電
○十一月七日儒師中長豊測卒 名幹稱周古 号松南 秋香庵
○十一月十七日佛人達忍集地卒
○十二月七日夕七時聖堂の内學問不火
彼不似する其草の画蹟多かり

○墳墓圖志三卷字序成 一名秋風抄作者不詳 江戸少人の墓碑せあり

文化十二年乙亥

正月廿十月六日より雲霞と海 二月廿日迄 大雪江戸と城路の入りし 皆人毎平ちみちあり 身尾智

○三月十一日より中山法花寺興院祖師 少之閑帳 ○四月朔日より

廣尾天現寺毘沙門天閑帳 ○同十五日より江の橋上の宮本大天閑帳 未信迄

○四月日光山二百回所神忌所法會 ○六月朔日より日向院を秩父大

日向山太陽寺修造僧大士再帳 ○六月二日抱一君尾形光琳の百年忌修らる

○六月廿五日書家後辺東河卒 名彰 林文平 徳本上人傳通院本堂為小 後書院より小書院

隅小大日堂再建 ○今年入肇朝鳥の異品を玩ふ可なり文政の始と都下の貴族

園小裁一益小後と遊舎を設く 中より一平の貝よりけりしもの 遠橋山人 牛ひく花のさよりむきし

○七月初日日向院を甲助善光寺如東閑帳 ○同十六日より下谷徳大寺

摩利支天閑帳 ○七月廿一日長遠寺より下谷徳大寺法蓮寺祖師閑帳 ○八月より

浅草念佛堂より出羽國湯殿山黄金堂於竹六日如東再帳 冥室小茶客於竹六日 紐ありて其紐小茶縮細と

用ひる ○十二月雨森牛南卒 字才名宗真一平松蔭 不沢村 武藏野話刊行 世名崔礎若

同十三年丙子 八月回

正月廿日奇人安田躬弦卒 号東水 称一巻 二月十三日土肥鹿鳴卒 七十餘名石野雅 秀太郎易字不

○三月三日木下川津島茶師如東閑帳 ○三月十五日日向院をて目

尾林より本寺閑帳 ○二月十六日浅草トブ店長遠より鎌倉本寺より祖師

帳 ○八月十八日湯島社地より野島澤山寺地蔵尊閑帳 ○八月より池の妙寺より

祖師開帳 ○四月朔日ハ獲國より相州松本親世ヲ開帳 ○四月廿八日ハ淺草芝草
石法養より池上張立ヲ祖師開帳 ○初夏より壬八月迄江戸渡瀧流ハ多ク

死以 ○五月三日朝草法町桐長相堂立居梁 長十二寸 折 是年以テ南無佛の聖年善徳の紀
年海老橋村郡下星川村松山神社の神木

○五月三日申刻在東京町より月方出火一廓焼亡 飯宅田町在芝所山の宿所
丸町河川あり

○五月十七日 函人鈴木芝草卒 六十ハ名種一馬芝草
浅草新町大仙寺芝草 ○紫おとと始て後 おむと芝草と云芝草の種数六
本度始ハる價と以幣ハる幣を

○六月十八日ハ日向院より府中深大寺元三大師開帳 ○閏八月三日四日
大風多人家を損一樹木を倒江戸外出水 本寺致テ淺橋倒ト云本深川の辺
家一宿上ニ水あり

○九月七日戲作若山東京傳終 若山氏在種孫傳終
辛六十日向院小葬儀 ○餅家奇人於持切 替若玄々
編集

○九月梅搦返り咲多 ○九月以夜小入といくとあく物子を九ノ太鼓を打者

○九月廿二日より章橋所門外晶化小於て親世を交 奉
賜 勅進徳

再行あり 日教ハ時久十五日を期トす自初の名種中より共火と云芝草致
染在一条小院亡ハ再ハ芝草を命トて毎節一聖年九月十五に終 ○十一月十九日佛人
不隨亦成美卒 佛林井符在八節六事ハ
車返町蓮花寺由葬儀

文化十四年丁丑

正月十二日曉八時雨中新象物町南側より出火あり芝居焼亡若代町大坂町

志左衛門町人形町通於焼 ○正月月中旬佛師律雲庵卒 此喜の縁江并
梅のて同あり

○二月九日画人金子金渡卒 名
元圭 ○三月朔日本所法

親世大明神開帳 ○月三日ハ青山若光より芝居殿江江院如來開帳 ○同十日より

十女ハ浅草寺親世ヲ開帳 ○同日ハ浅草寺より少て初初 古天拜祖師開

帳 ○月十日ハ浅草大仙より少て張洲海長より新浦祖師開帳 ○青山梅窓院春平

親世ヲ開帳 ○月廿五日ハ香條親世ヲ開帳 ○四月朔日ハ芝草神宮地内より

相及梅澤君妻控現因情 ○同日より不忠他系又天内より上明村田医王君旭
 某師如末之系情 ○同日より同志齋某師如末因情 ○四月朔日秋野崎谷君卒
 竹谷君名信教天恩乳年と号し俗稱を新内と云雲丹度之史氏之孫年百才小谷茶屋に養ひ終
 佛千社ありと号してこれを張る小徳年より一刺毛を背て數十丈の石橋の左根よりこいへも穿てたる
 子又以今より始なりはる寛政の以より始り天保の以より始りては保盛より一書を信以群を争ひ終る
 幸社といふも博る多ありこれに粘りてはきふのよりこれに之の草をりては草小出ありしも亦一少信保
 よりこれを抄ふ
 ○四月十七日官医松田元伯卒 七十八才名相異号訥痴 病下天徳も小甚
 ○四月十九日御師雲中菴
 完来卒 七十 大徳山鹿島小甚 ○五月より七月より
 江戸若狭水大旱 ○八月九日官儒岡田寒泉卒 七十一才名怒 称愚也 ○十月廿六日最上流
 算術の師倉田算九清の安政卒 七十一才名怒 称愚也 ○同日
 降福瑞浩十寸見沙洲死 山谷寺某院小甚以死後瑞浩とて 七世河津の某名小甚 ○十一月廿二日晴未刻以江戸
 市中雷鳴の如き響きて光り物空中を飛ぶ 武蔵八王子横山扇の畑中一原より 長三尺幅七尺厚六寸極煙りたる石

此年間記事

文化の始より浅草寺七月十日の四方六千日未赤き蜀黍と雷除とて商
 ふり始る ○浅草寺奥山之社控現の后一人磨の社を建てる社辺山吹花の歌を載
 景色を造り ○日蓮村小富士山を築く ○日蓮里青雲寺の布袋社巨像を
 修性院へ移す ○和合社の画像を作り始む 其圓人の如く近以近以流基止る流社の 板小多あり画上下題して和合生万福日進太平
 錢隨亭高辛書系事古北園と有り貴人も常小本小掛られり大観平次平瀬が傍懸に行い以清人集
 折梅小和合社の子と有りこれに流基止る山拾得ありといひつゝ一若るるもて月人の瓊浦筆話
 小載せり又清人蔣士詮り也雅集小画和合神の持ありて寒山拾得の二人の事とせり荆山先生の
 編輯燕居雜話ふりりくつり
 ○叶福助といふ泥塑人を作り出さるるりてせせり 是の昔よりりて所する三年二は女小對 してつりまうけりのあり
 ○江戸坂田那國友村鉄炮船治國友藤玄清能高といふ人業学の醫師山
 田大園小流り蘭人推考する所の鉄叢中へ風を籠め火薬火繩を用ずりて
 風の勢を以て放つ鉄炮へ別小彩意を加へて凝らし風範又奇炮と号し
 へ製者一始む 蘭名ウインドルウルと云文政のよりより世に知らるるは小甚製者のりり

○文化七八年の以て石菖蒲の異子と玩ぶ事盛なりしれ響ふりし橋下倍一
 其後これを賞玩所謂石菖三種思菴金虎類紐脊也生及菴老有極川正宗浦島
 聖山虎の巻物雪置夜天下天齋誠通孫青茶廻入ると其の各有り

○此時代名家△儒家山本北山龜岡鶴翁太田錦城朝川善庵△詩市河
 寬齋大窪久民館柳湾業地五山△書輪池屋代為中村佛庵後辺
 東河恭星他関花明松本竜津董堂教義中川由義二井親孝

△狂哥其歌蜀山人六樹園似盛文舎齋子丸三院履法師千首接堅丸鈍亭
 和坊琴通舎英賀△俳諧村田房小知眞妻自然堂風朗不随舟成美八孫
あるまじく中喜庵護物小兼庵願嶺△画狩野任川院法下同晴川院

法印同素川彰信抱一石谷文晁門文一依田非谷英一陸長谷川雲且
 鈴木南嶺大長雲峰春木南湖△鑄物師村田整民△碑碣彫刻窪世
 祥△金形戸張富久△刀鍛冶水心子正秀手柄山正重大慶並胤

△蒔繪師原更山羊遊坂内寛哉△浮世繪葛飾戴斗秋川豊國門巻
 廣門國貞門國丸啼高北る鳥居清宗柳之居辰秋折川重信泉守澤名
 目吉

深川柳堤等林月磨菊川英山勝川春亭門春庵在久川美丸△花形と
 いる依根の存仍りる○神乃藤敷坂田伴勝義龍久部日向仍りる
 ○雨々屋取和年々小減り○南無八十島富五郎不白の門ふ入て茶事を
 ようく根岸○根岸田光寺庭中長廿七尺横四尺餘の菴枳あり一株の名樹
あり文化の以て盛の以て下の騷人らふ集ひしが惜むべし文政始の以て
 果つる○尾久村深山玄琳といふ人の園中小牡丹数株を栽置花の以
 てる物多かりし文化中より絶つる○文化の末大坂の竹本津屋を以て江
 戸より標度ふれをせり文政中道に戸小
 仍りし○立川馬馬落味一の庵を以て
 起以て父亭可樂朝藤坊後樂出て跡盛ふりる○狂言橋の模様遠明純

子の権孫又伊豫條と云ふ條物と云ふ伊豫條といふ上藤小比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

紙の作製又伊豫條と云ふ條物と云ふ比○文化の始より是は

武江年表卷之七終

